マネジメントの為の知覚対象

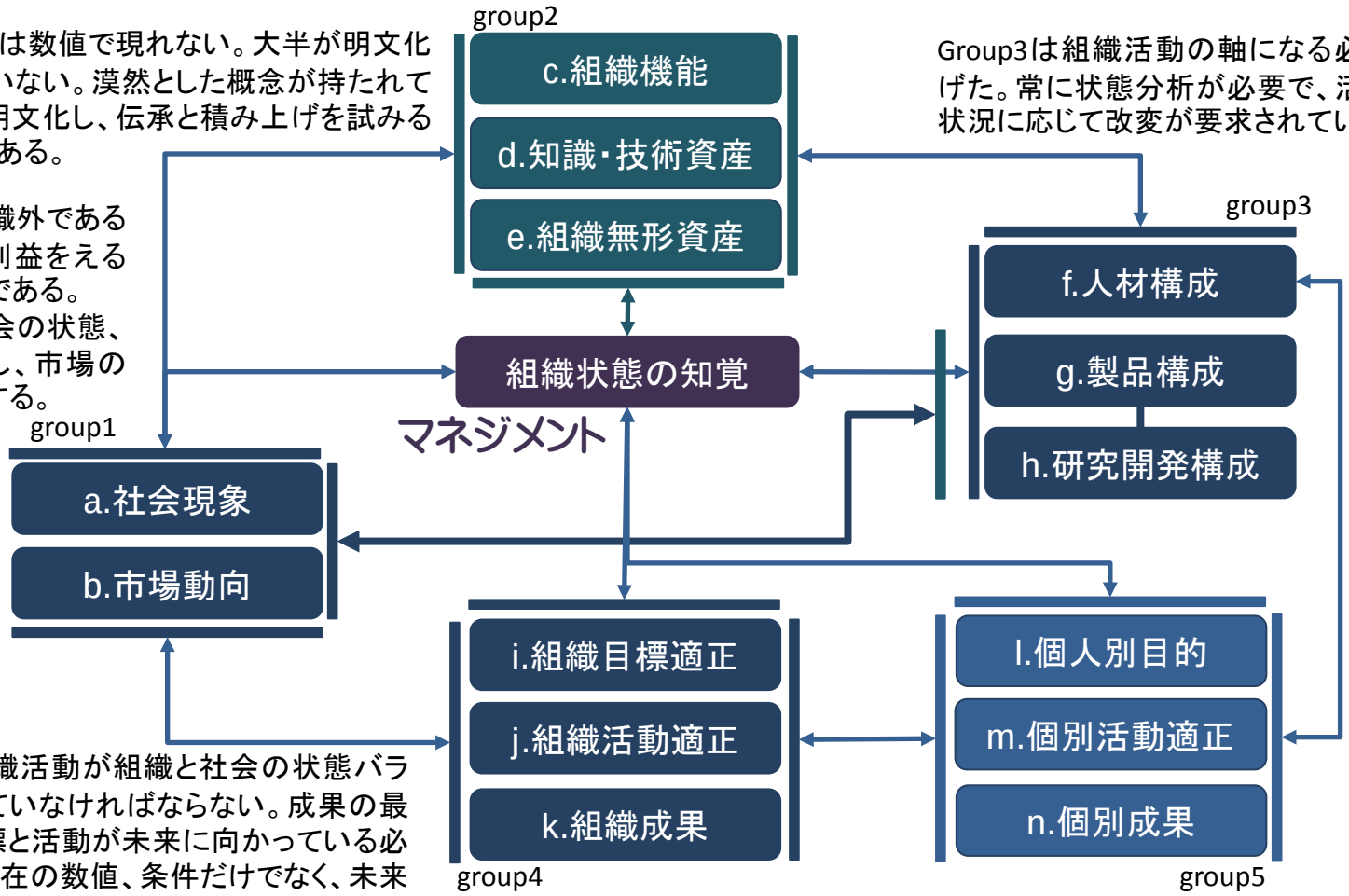
範囲と精度をどこまで知覚しているかによって、マネジメントの精度及び機能が決まる。

社会、市場、組織、人、等々。そして、これらのバランスを常に分析しておかねばならない。
より確かな意思決定をするために、数と言葉で知覚する。
数は断面で言葉は形態を示し、思考と行動方向を明らかにする。

Group2は数値で現れない。大半が明文化されていない。漠然とした概念が持たれている。明文化し、伝承と積み上げを試みる必要がある。

Group3は組織活動の軸になる必要なものをあげた。常に状態分析が必要で、活動状況、社会状況に応じて改変が要求されている。

Group1は組織外であるが、組織が利益をえる唯一の場所である。
国内外の社会の状態、変化を分析し、市場の動向を把握する。



Group5は、個人の根本的な要素だ。通常は仕事に関わる能力が測定されているが、深く業績に関わってもらうためには、理解しておいた方が良い項目である。また、個人によって、成果の扱いが違うので、評価方法を検討しておく必要がある。

Group4は組織活動が組織と社会の状態バランスが取れていなければならない。成果の最大化は、目標と活動が未来に向かっている必要がある。現在の数値、条件だけでなく、未来への挑戦が不可欠である。

copyright SeedWin